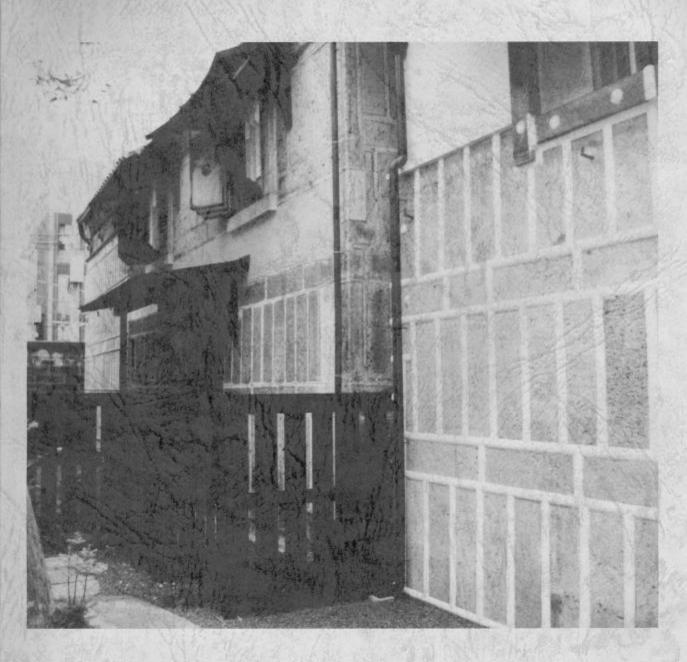
# 宇都宮の石造建造物



宇都宮市教育委員会

## 表 紙

市指定文化財

(平成7年11月27日指定) 宇都宮市今泉1丁目4-33

## 宇都宮の石造建造物

平成9年3月 宇都宮教育委員会 まちにはそれぞれの気候や風土によって生まれた建造物があります。宇都宮市においても、 特産の大谷石などを使った石造建造物が数多く見られ、これが本市の個性となっています。

宇都宮の風景にすっかりとけ込んでいる大谷石などを用いた石造建造物は、宇都宮で生活する人々にはごく普通の風景で、石蔵は郊外に行けばあちらこちらで見ることができます。 郊外に比べ数こそ少ないですが、市中心部にも石蔵は現存しており、その姿は古き商都宇都宮を偲ばせます。しかし、この見慣れた風景が全国的に見て、宇都宮独特のものと気づく人は、意外と少ないかもしれません。

平成7年には旧篠原家住宅の主屋と3棟の石蔵とが市の文化財に指定され、近年、宇都宮 の石造建造物が注目されています。

本市教育委員会では現存する石造建造物の調査を行い、その成果をみなさんに紹介しよう と本冊子を編集しました。この冊子が皆様が「宇都宮の石造建造物」を理解する上での手助 けになれば幸いに思います。

最後になりましたが、現地に赴き調査してくださった調査員の方々、聞き取りにご協力く ださった方々に厚くお礼申し上げます。

平成9年3月

宇都宮市教育委員会

教育長 大塚一之

## 目 次

## 序 文

## まえがき

Ι	『宇都宮の石造建造物』の調査について ――――――――――――――――――――――――――――――――――――			
П	『宇都宮の石造建造物』の歴史 ―			
ш f	式表的な石造建造物			
0	旧篠原家住宅	- 4		
	日本型公会宇都宮型ヨハネ教会礼拝堂	- 7		
88	カトリック松が峰教会礼拝堂	- 8		
83	・小野口家住宅の石造建造物群			
164	大谷公会堂	- 10		
V	7内所在の石蔵			
23	<ul><li>一条地区 ・旭地区 ・陽南地区 ・陽東地区 ・陽西地区</li></ul>			
33	宮の原地区 ・平石地区 ・清原地区 ・瑞穂野地区 ・豊郷地区			
100	国本地区 ·城山地区 · 富屋地区 · 篠井地区 · 姿川地区			
89	雀宫地区			
V r	市内所在の石造主屋 ――			
13	陽東地区 ・国本地区 ・富屋地区 ・姿川地区			
VI r	市内所在の石造門			
	陽東地区 ・宮の原地区 ・平石地区 ・清原地区 ・国本地区			
10	城山地区 ・富屋地区 ・姿川地区			

あとがき

## まえがき

本冊子は、平成7年度に宇都宮市教育委員会が市文化財保護審議委員会の答申を受け、市 文化財調査員活動の一環として実施した、「石造建造物調査」の結果をもとにまとめたもの です。

同調査は市内全域を対象として実施されました。本冊子はこれをもとに事務局(市教育委員会文化課)の職員が追加調査を行い、編集にあたりました。

本冊子は、多くの方々に実生活にとけ込んでいる石造建造物を、できるだけ多く紹介する ことを第一の目的として編集しました。そこで、専門的な記述は極力避け、現状の写真を中 心に掲載しました。

なお、この「石造建造物調査」は以下の組織で調査をしました。現地調査において多くの 方々のご協力を仰ぎましたこと、心からお礼を申し上げます。

#### ●宇都宮市文化財保護審議委員(平成7年度)

渡辺 安友 (委員) 冨 祐次 (副委員長) 塙 静夫 (委員長) 大金 宣亮 (委員) 橋本 澄朗 (委員) 阿部 昭 (委員) 柏村 祐司 (委員) 大嶽 浩良 (委員) 森谷 憲 (委員) 小林 幹夫 (委員)

## ●宇都宮市文化財調査員【( )内は調査員の担当地区】(平成7年度)

河合 芳幸 (一条) 塚田 宗雄 (陽北) 酒井 光一 (旭 ) 安野弥一郎 (陽南) 上野とも子 (陽西) 高藤 常松 (星が丘) 清水 昭 (陽東) 小林 哲夫 (泉が丘) 条川 弘明 (鶴田) 菊池 正仁 (平石) 坂本恒一郎 (清原) 木嶋 宏 (横川) 坂寄 悦男 (瑞穂野) 平塚 良雄 (豊郷) 小塚 博 (国本) 阿部 昭 (城山) 福田 操 (富屋) 阿久津義正 (篠井) 絵面 昭男 (姿川) 小島豪市郎 (雀宮)

#### ●宇都宮市教育委員会文化課文化財保護係職員(平成7年度)

横堀 杉生 (文化課長) 手塚 英男 (文化財保護係長) 梁木 誠 (指導主事) 小松 俊雄 (指導主事) 大塚 雅之 (指導主事) 富川 努 (指導主事) 神野 安伸 (指導主事) 今平 利幸 (指導主事)

## I 『宇都宮の石造建造物』の調査について

本冊子は宇都宮市文化財調査員活動の一環として実施した「平成7年度課題別一斉調査」のテーマ『宇都宮の石造建造物』の結果をもとに、その後、文化課職員が追加調査したものをまとめたものです。

#### 1 目 的

宇都宮市内には市の特産品となっている大谷石を用いた建造物が、現在でも多く見受けることができます。しかしながら、建造物に用いた大谷石自体の寿命や人々の社会生活の変化によって、 大谷石の建造物が徐々に消滅しているのも事実です。そこで、市内にある大谷石を用いた建造物 の悉皆調査を実施し、記録に残すことを目的としました。

#### 2 調查対象

『石造建造物』の調査対象は以下の基準を設けて行いました。

- 第二次世界大戦以前に建造されたもの
- ・大谷石等を用いた主屋・石蔵 (灰小屋・味噌蔵等小規模なものは除く) ・教会・倉庫等の建 造物
- ・大谷石等を屋根・腰壁(張石・積石)等に用いた建造物(神社・寺院・門等の建造物も含む) なお、石蔵に関しては報告数が多く、ページ数の都合上本冊子では、明治初期(明治15年) 以前に建造されたもののみの掲載とさせていただきました。

#### 3 調查方法

#### (1)調 査

調査は直接現地に行って聞き取り調査を中心に行いました。なおそれと平行して写真撮影や スケッチ、計測なども行いました。

#### (2) まとめ

「石像建造物調査票」に調査結果を記録し、写真やスケッチを添付しました。

#### (3) 調查地区

調査地区は宇都宮市全域で行いましたが、各調査員は原則として担当地区内の調査を行いま した。

#### 4 調査結果

調査員からは661件の調査票が提出され、この内石蔵は583件と大部分をしめています。 文書・棟札や梁などへの墨書で建築年号が判明した石蔵は242棟で、これらを屋根の材質(大 谷石などを加工した『石屋根』と『瓦屋根』)、壁の形態(薄く削った大谷石などを釘で張り付けた『張石壁』と、五十石[15cm×30cm×90cm]を積み上げていく『積石壁』)とに分類して考察した結果、大正時代に石屋根が減り瓦屋根が増えています。同様に壁に関しても張石壁から積石壁へと大正時代に変わってきているという、おおまかな傾向をつかむことができ、その他口伝で年号を確認したものについても、おおよそ同じ傾向であることが確認できました。

今回この結果に事務局の調査を加えて本冊子にまとめました。これら石造建造物のほとんどが 個人所有となっておりますので、見学される場合は、所有者の許可を受けるようにしてください。

## ■ 宇都宮の石造建造物の歴史

宇都宮市内には、大谷石などの凝灰岩を用いた建造物が多くあります。この凝灰岩は東西に約8km。南北に約37kmにわたり埋蔵され、宇都宮市内では、中心部から北西約7kmに位置する大谷町を中心にこの石を産出しています。また、産出地により田下石・桜田石などと様々な名前でも呼ばれ、それぞれに色合いなど多少の違いがあります。また、石材としての特徴は、耐震・耐火・耐久性に富み、石質が柔らかいため加工が自在ということがあげられます。

大谷石などの凝灰岩が建造物に使用された 歴史をたどると、古墳時代までさかのぼりま す。姿川・田川流域には、7世紀代に造られ たいくつかの古墳に、凝灰岩を組み合わせた 横穴式石室(埋葬施設)が見られます。また、 江戸時代の本多正純による宇都宮城改修の際 にも、田野町から採取した大谷石が使われた と言われ、江戸時代後半には二荒山神社の石 垣修理にも使われたとも言われています。

江戸時代前期には農間渡世(農民が農業の合間に行う営業・稼業)の形態で、商品としての切出しと販売とが行われていました。特に18世紀後半以降は、貨幣経済の発展とともに盛んに行われるようになりました。明治7年の「建築石取調」には、明治時代以前に、大谷石が石井河岸から鬼怒川の舟運を利用し、江戸に出荷されていたことが記されています。

明治時代にはいると、東京をはじめとして 関東一円に販売網が広がりました。大谷石の 名前を全国に広めた建造物として、大正11 年建設の旧帝国ホテル(愛知県大山市明治村 に中央玄関を保存)が挙げられます。大谷石 を使用したこの建造物は、大正12年9月の 関東大震災において焼け残り、大谷石の耐火 性・耐震性が全国に知れわたりました。

一方,市内に造られた代表的な石造建造物 では、大正末期~昭和初期頃の大谷公会堂 (市内大谷町に現存),昭和3年の宇都宮商工 会議所(市内中央公園に一部保存),昭和7年



「石の里」大谷



大谷石の採掘跡



十里木古墳石室 (天井石)



十里木古墳石室 (奥壁)

のカトリック松が峰教会礼拝堂(市内松が峰 1丁目に現存),昭和8年の日本聖公会宇都宮 聖ヨハネ教会礼拝堂(市内桜2丁目に現存) 昭和10年の栃木県教育会館(昭和55年に 解体)などがあげられます。

民家における石造建造物に目を向けますと、 第二次世界大戦以前に造られた石蔵は、明治・大正時代の上層農家の富の象徴として建 てられたものでした。戦後、農地改革や農作 業の機械化に伴い生産力が増し、多くの農家 の地位が向上すると、これら農家が富の象徴 として石蔵を建て、農業設備を充実させるた めに、納屋等の石蔵以外の付属建築物も増加 し、主屋などにも使用されるようになりまし た。

石蔵における石の使い方では、戦前は張石 様式(外壁に化粧材として板状の石を張る) が中心でした。この様式には縦張りと横張り とがありますが、縦張りの方が古くからある 様式です。戦後になると、積石様式(石をブ ロック状に積み上げて壁を構成する)が中心 となってきます。この変化は、主に輸送手段 に関係しています。明治時代の中心的な輸送 手段は馬であり、運べる石の大きさや量は限 られていました。ところが戦後、トラックな どの交通手段の発達が、大きな石を大量に運 ぶことを可能にし、積石様式が普及したので す。屋根の形態にも年代的変化があり、戦前 は石屋根 (石を瓦のような形に加工したもの) が多く、戦後になると現在多く見られる瓦屋 根に変化してきました。しかし、石屋根は最 近、瓦屋根やトタン屋根に改修されたものも 多く、現在、屋根の材料だけでは一概に年代 を判定できません。

以上、簡単に宇都宮の石造建造物の歴史を 紹介しましたが、これが本編をご覧になる際 にお役に立てば幸いです。



二荒山神社の石垣



「弘化三年」の銘(二荒山神社)



宇都宮商工会議所の玄関

## Ⅲ市内の代表的な石造建造物

#### ○旧篠原家住宅

主 屋 石蔵 Ⅰ 石蔵 Ⅱ 石蔵 Ⅲ (宇都宮市指定文化財) 平成7年11月27日指定

所在地 今泉1丁目4-33【旭地区】

所有者 宇都宮市

・主 屋



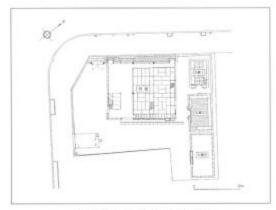
「旧篠原家住宅」主屋 石蔵 I

年 代 明治28年 (1893) 梁の墨書による

規 模 総床面積:331.24㎡(1階172.24㎡2階159.00㎡)

2 階建 1 階大谷石張石壁 瓦葺屋根

篠原家は戦前までは醤油醸造や肥料の 販売を営む、宇都宮では有力な商家の一 つでした。この主屋は、店部分と住居部 分とが一体化されているため、1・2階 併せて100坪という大規模なものとなって います。外観は黒漆喰を用いるとともに、 腰までの部分を大谷石を張って外壁とし、 目地を壁と同じ黒漆喰の海鼠仕上げとし ています。45cm角のケヤキの大黒柱や2 階座敷の4.5m幅の床の間など、簡素なが ら良い材料をふんだんに用いた豪勢な建 物となっています。また、店先の格子も 堂々たる風格を形作るのに大きな役割を 果たしています。



旧篠原家住宅敷地平面図

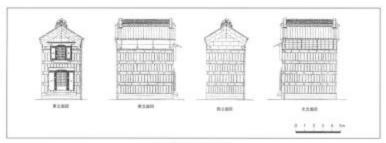


座 敷

#### ·石蔵I

年 代 明治28年 (1893) 梁の墨書による

規 模 延床面積39.64㎡ 2階建 全面大谷石張石壁 瓦葺屋根



石蔵I立面図

石蔵Ⅰは新蔵と呼ばれ、主屋と同じ年に 造られました。もとは主屋と廊下でつなが り, 部屋感覚で出入りできました。壁は大 谷石の張壁で、目地や入り口の扉は主屋と 同じ黒漆喰の仕上げです。なお、内部の壁 は全面鉄板が張られています。これは後に 防犯のため付けられたものです。



#### ・石蔵Ⅱ

鬼瓦



石蔵Ⅱ立面図

年 代 嘉永4年 (1851) 梁の墨書による

規模 延床面積70.14㎡ 2階建 全面大谷石張石壁 瓦葺屋根

石蔵Ⅱは文庫蔵と呼ばれ、1階には日用 品を、2階には書籍や美術品・着物を中心 に納めており、日常使いの蔵であった事が 分かります。壁は石蔵Ⅰと同じく大谷石の 貼石を用いた黒漆喰仕上げです。

2階の梁には「篠原友右衛門安親建立 大工棟梁留吉」と黒で書かれています。

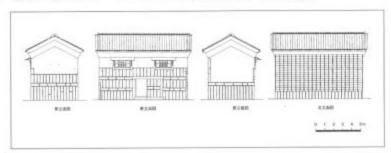


着物を入れておいたタンス

#### · 石蔵Ⅱ

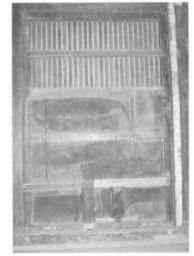
年 代 石蔵Ⅱとほぼ同時期

規 模 延床面積41.18 ㎡ 2階建 1階大谷石張石壁 瓦葺屋根



石蔵Ⅲ立面図

この蔵は、もともと篠原家で醤油を醸造していたときの道具などを入れておいた蔵です。建築時は2階建でしたが、第二次世界大戦後、2階の床が取り払われてしまい、現在は吹き抜けとなっています。石蔵I・IIの窓と入口が開き戸なのに対し、石蔵IIでは引き戸になっています。この引き戸の裏側には、装飾と防犯を兼ねたと思われる大鋸が打ち付けてあります。この蔵も大谷石の張石を1階部分の壁に用いていますが、2階の壁と目地の海鼠は白漆喰仕上げです。



扉の裏側の大鋸

#### ○日本聖公会宇都宮聖ヨハネ教会礼拝堂



日本聖公会宇都宮聖ヨハネ教会礼拝堂

竣工年 昭和8年(1933)

所在地 桜2丁目3番27号【陽西地区】

所有者 日本型公会北関東教区

規 模 延床面積208.27㎡(1階194.06㎡ 2階14.21㎡)

平屋建(塔部2階建)鉄筋コンクリート造 全面大谷石張石壁 銅板葺屋根

静かな住宅地の中にある愛隣幼稚園の敷地内に、素朴な大谷石の外観を持つ教会堂があります。 聖公会の教会らしく質素なたたずまいを見せていますが、長方形の礼拝堂に四角い鐘塔を付けた ものとなっており、やや重い印象があります。しかし、それを大谷石の質感が和らげ、全体とし て安定感のある建物となっています。

大谷石の外観とは一転して、内部は曲げた木の梁を見せています。これはさながら、逆さになった船底のような印象を与えますが、全体としてはリズミカルで軽い印象ながら、気品のある空間となっています。窓や扉の建具なども献堂当時のものがそのまま残り、それ自体が貴重なものとなっています。



礼拝堂内



鐘塔

#### ○カトリック松が峰教会礼拝堂

竣工年 昭和7年(1932)

所在地 松が峰1丁目1-5

【旭地区】

所有者 カトリック浦和教区

規 模 延床面積953.77㎡

(建築面積404.2㎡)

4 階建鐘楼付き(塔)

銅板葺屋根



カトリック松が峰教会礼拝堂

現在日本に残る最大の大谷石建造物であるこの教会は、教会建築においても北関東で屈指の規模を誇ります。鉄筋コンクリートの躯体に大谷石を張った教会堂は、2本の尖塔を正面に持つ本格的なロマネスク様式となっています。

大正時代、フランス人のカジャック神父が抱いていた献堂の志を、弟子であったフロジャック神父が引き継ぎ、昭和7年11月に献堂しました。設計者はスイス人のMx、ヒンデルで、国内に多くの教会関係の建造物を残すとともに、「北海道の近代建築の開拓者」といわれていました。

建築当初は1階を幼稚園としていましたが、現在はホールとして利用しています。2階は礼拝 堂で、もとは畳敷きでしたが、宇都宮空襲で被災して屋根及び2階の床を消失したため、戦後の 再建で床張りとされました。3階から上は尖塔部分で、3階は聖歌隊席、4階は鐘楼で戦時中の 金属回収で失われたアンジェラスの鐘が、昭和57年に再現されて美しい音色を響かせています。



大谷石で装飾した礼拝堂内の柱



アンジェラスの鐘

#### ○小野口家住宅の石造建造物群

所在地 田野町【城山地区】

年代(別表)

所有者 小野口氏



小野口家住宅の長屋門

小野口家は江戸時代から長らく庄屋をつとめた農家です。屋敷内には6棟の石造建造物が存在し、主屋を取り囲むように建てられています。この配置は、宇都宮近辺における典型的な豪農の屋敷構えです。これらの建造物は文政8年(1825)から大正期にかけて建造されたもので、年代によって構造上の相違がみられます。江戸期から明治初期に建てられたものは、大谷石の薄板を木造の枠組みに張り付けた張石様式で、明治後期から大正期に建てられたものは、角石を積み上げた積石様式を用いています。

名 称	構 造	年 代
前の蔵	張石 土台積石 瓦屋根 (旧石屋根)	江戸末期 (推定)
長屋門	張石 瓦屋根 (旧石屋根)	明治9年 (1876)
旧乾燥小屋	積石 瓦屋根 (旧トタン屋根)	大正中期 (推定)
堆肥舎	積石 瓦屋根	明治後期 (推定)
裏の蔵	張石 瓦屋根 (旧石屋根)	文政8年 (1825)
酒藏	張石腰壁 トタン屋根	明治5年(1872)



前の蔵



旧乾燥小屋



堆肥舎



裏の蔵



酒蔵

## ○大谷公会堂

所在地 大谷町1314【城山地区】

年 代 大正末期一昭和初期頃

所有者 宇都宮市

規模約22.3m×約11.1m 全面大谷石積造 平屋建 スレート葺屋根

大正時代末期一昭和時代初期頃に 建てられた城山地区の公会堂です。 この建物の特徴は装飾用の4本の柱 で、そこに刻まれた彫刻は、帝国ホ テルのものと似ています。



大谷公会堂

## IV 市内に所在する石蔵

No. 1

建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 大寛2丁目【一条地区】

規 模 2階建 5間×5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面積石壁

使用石材 大谷石



No. 2

建築時期 江戸時代 (口伝にて確認)

所 在 地 河原町【旭地区】

規 模 2階建 2.5間×3.5間

屋 根 瓦屋根

壁 積石腰壁

使用石材 大谷石

No. 3

建築時期 文化2年(棟札にて確認)

所 在 地 三番町【旭地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石

No. 4

建築時期 明治4年(棟札にて確認)

所 在 地 築瀬1丁目【旭地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁







建築時期 明治14年(棟札にて確認)

所 在 地 築瀬1丁目【旭地区】

規 模 2階建 2.5間×2間

屋 根 瓦屋根

MER 全面張石壁

使用石材 大谷石

No. 6

建築時期 明治14年(棟札にて確認)

所 在 地 江曾岛町【陽南地区】

規 模 2階建 3間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石

No. 7

建築時期 江戸時代 (口伝にて確認)

所 在 地 川田町【陽南地区】

規 模 2 階建 3 間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石

No.8

建築時期 明治14年(棟札にて確認)

所 在 地 川田町【陽南地区】

規模 2 階建 3 間×2.5間

屋根 瓦屋根

166 張石腰壁









建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 駒生町【陽西地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面積石壁

使用石材 大谷石



No.10

建築時期 明治10年(口伝にて確認)

所 在 地 石井町【陽東地区】

規 模 2階建 6間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面積石壁

使用石材 大谷石



No.11

建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 峰1丁目【陽東地区】

規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 石屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石



No.12

建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 峰1丁目【陽東地区】

規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面積石壁



建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 上欠町【宮の原地区】

規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.14

建築時期 明治10年(棟札にて確認)

所 在 地 上欠町【宮の原地区】

規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.15

建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 鶴田町【宮の原地区】

規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.16

建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 鶴田町【宮の原地区】

規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁



建築時期 明治12年(棟札にて確認)

所 在 地 鶴田町【宮の原地区】

規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石

No.18

建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 砥上町【宮の原地区】

規 模 2階建 3間×2.5間

屋 根 トタン屋根

壁 全面張石壁

使用石材 徳次郎石

No.19

建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 砥上町【宮の原地区】

規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石

No.20

建築時期 明治11年(棟札にて確認)

所 在 地 砥上町【宮の原地区】

規 模 2階建 4.5間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁









建築時期 安政5年(棟札にて確認)

所 在 地 下平出町【平石地区】

規 模 2階建 3間×3間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.22

建築時期 安政5年(棟札にて確認)

所 在 地 下平出町【平石地区】

規 模 2階建 4間×3間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.23

建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 下平出町【平石地区】

規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.24

建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 下平出町【平石地区】

規 模 2階建 3.5間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁



建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 下平出町【平石地区】

規 模

使用石材 大谷石



No.26

建築時期 明治6年(口伝にて確認)

所 在 地 平出町【平石地区】

規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 不明



No27

建築時期 弘化4年(棟札にて確認)

所 在 地 平出町【平石地区】

規 模 2階建 5間×3間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石



No.28

建築時期 明治3年(棟札にて確認)

所 在 地 平出町【平石地区】

2 階建 4 間×2.5間 規模

屋 根 石屋根

税色 全面張石壁



Na29

建築時期 明治14年 (棟札にて確認)

所 在 地 平出町【平石地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面積石壁

使用石材 大谷石



No.30

建築時期 明治15年(口伝にて確認)

所 在 地 平出町【平石地区】

規模 2階建 4間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.31

建築時期 天保12年(墨書にて確認)

所 在 地 柳田町【平石地区】

規 模 2階建 3.5間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.32

建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 板戸町【清原地区】

規 模 2階建 2間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁



建築時期 嘉永2年(棟札にて確認)

所 在 地 板戸町【清原地区】

規模 2階建 4間×2間

屋 根 トタン屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石

No.34

建築時期 明治10年(棟札にて確認)

所 在 地 板戸町【清原地区】

規 模 2階建 4間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石

No.35

建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 板戸町【清原地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石

No.36

建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 板戸町【清原地区】

規 模 2階建 2.5間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁









建築時期 明治15年(口伝にて確認)

所 在 地 板戸町【清原地区】 規 模 2階建 3間×2間

 屋
 根
 瓦屋根

 壁
 張石腰壁

使用石材 大谷石

No.38

建築時期 明治2年(棟札にて確認)

所 在 地 上篭谷町【清原地区】 規 模 2階建 3間×2間

屋 根 トタン屋根 壁 張石腰壁 使用石材 大谷石



No39

建築時期 明治15年(棟札にて確認)

屋 根 瓦屋根壁 積石腰壁使用石材 大谷石

No.40

建築時期 明治11年 (棟札にて確認)

所 在 地 竹下町【清原地区】 規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面積石壁



建築時期 江戸末期 (口伝にて確認)

所 在 地 道場宿町【清原地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.42

建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 道場宿町【清原地区】

規 模 2階建 2.5間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.43

建築時期 明治11年(棟札にて確認)

所 在 地 道場宿町【清原地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石



No.44

建築時期 明治14年(棟札にて確認)

所 在 地 道場宿町【清原地区】

規 模 2階建 3間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面積石壁





建築時期 明治元年(棟札にて確認)

所 在 地 野高谷町【清原地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 石屋根 (トタンで覆われる)

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石



No.46

建築時期 明治元年(口伝にて確認)

所 在 地 氷室町【清原地区】

規 模 2階建 3.5間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石



No.47

建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 満美穴町【清原地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石



No.48

建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 上桑島町【瑞穂野地区】

規模 2階建 4間×3間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁



建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 西刑部町【瑞穂野地区】

規 模 2階建 4間×3間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.50

建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 西刑部町【瑞穂野地区】

規 模 2階建 6間×3間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No51

建築時期 江戸後期(口伝にて確認)

所 在 地 東刑部町【瑞穂野地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.52

建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 東刑部町【瑞穂野地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁



建築時期 明治初期(口伝にて確認) 所 在 地 東刑部町【瑞穂野地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.54

建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 東木代町【瑞穂野地区】

規 模 2階建 6間×3間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.55

建築時期 慶応3年(棟札にて確認)

所 在 地 岩曽町【豊郷地区】

規 模 2階建 3.5間×2間

屋 根 トタン屋根 壁 全面張石壁

使用石材 大谷石

No.56

建築時期 弘化2年(口伝にて確認)

所 在 地 岩曽町【豊郷地区】

規 模 2階建 3.5間×2間

屋 根 トタン屋根

壁 全面張石壁



建築時期 寛永2年(棟札にて確認)

所 在 地 岩曾町【豊郷地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.58

建築時期 明治10年(棟札にて確認)

所 在 地 岩曽町【豊郷地区】

規 模 2階建 5間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石



No.59

建築時期 明治元年 (棟札にて確認)

所 在 地 岩曽町【豊郷地区】

規 模 2階建 3.5間×2.5間

屋 根 トタン屋根

壁 全面積石壁

使用石材 大谷石



No.60

建築時期 明治11年(棟札にて確認)

所 在 地 岩曽町【豊郷地区】 規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁



Na61

建築時期 安政4年(棟札にて確認)

所在地 岩本町【豊郷地区】

規 模 2階建 4間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石



No.62

文久3年(棟札にて確認) 建築時期

所 在 地 川俣町【豊郷地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.63

建築時期 明治5年(棟札にて確認)

所 在 地 川俣町【豊郷地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

製 全面張石壁

使用石材 大谷石



Na64

建築時期 明治9年(口伝にて確認)

所 在 地 川俣町【豊郷地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋根 トタン屋根

壁 張石腰壁



建築時期 明治10年(棟札にて確認)

所 在 地 川俣町【豊郷地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



Na66

建築時期 嘉永2年(棟札にて確認)

所 在 地 瓦谷町【豊郷地区】

規 模 2階建 4.5間×2間

屋 根 トタン屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石



No.67

建築時期 明治10年(口伝にて確認)

所 在 地 瓦谷町【豊郷地区】

規模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.68

建築時期 明治10年(口伝にて確認)

所 在 地 瓦谷町【豊郷町】

規 模 2階建 3.5間×2.5間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁



建築時期 明治9年(棟札にて確認)

所 在 地 瓦谷町【豊郷地区】

規 模 2階建 3.5間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.70

建築時期 明治9年(棟札にて確認)

所 在 地 瓦谷町【豊郷地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.71

建築時期 明治10年(棟札にて確認)

規 模 2階建 5間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.72

建築時期 明治4年(棟札にて確認)

規 模 2階建 4間×3間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁



明治10年(墨書にて確認) 建築時期

所 在 地 下川俣町【豊郷地区】

規 模 2階建 3.8間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.74

建築時期 慶応元年(文書にて確認)

所 在 地 関堀町【豊郷地区】

規 模 2階建 3.8間×2間

屋 根 石屋根

現象 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.75

建築時期 明治5年(口伝にて確認)

所 在 地 関堀町【豊郷地区】

規 模 2 階建 4 間×2.5間

屋 根 瓦屋根

116 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.76

建築時期 明治15年(棟札にて確認)

所 在 地 関堀町【豊郷地区】

規 模 2 階建 3 間×2 間

屋 根 瓦屋根

100 張石腰壁



建築時期 明治8年 (棟札にて確認)

所 在 地 関堀町【豊郷地区】

規 模 2階建 3.5間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.78

建築時期 明治10年(口伝にて確認)

所 在 地 長岡町【豊郷町】

規 模 2階建 5間×3間

屋 根 石屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石



No.79

建築時期 明治10年(棟札にて確認)

所 在 地 長岡町【豊郷地区】

規 模 2階建 2.5間×2間

屋 根 トタン屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.80

建築時期 明治10年(口伝にて確認)

所 在 地 岩原町【国本地区】

.....

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁



建築時期 明治5年(口伝にて確認)

所 在 地 宝木2丁目【国本地区】

規 模 2階建 4.5間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石

No.82

建築時期 嘉永4年(棟札にて確認)

所 在 地 新里町【国本地区】

規 模 2階建 4間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 寺沢石

No.83

建築時期 明治15年(墨書にて確認)

所 在 地 新里町【国本地区】

規 模 2階建 4間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 寺沢石

No.84

建築時期 明治15年 (棟札にて確認)

所 在 地 新里町【国本地区】

規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 寺沢石









建築時期 明治4年 (棟札にて確認)

所 在 地 新里町【国本地区】

規 模 2階建 3.5間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 不明



No.86

建築時期 明治8年(棟札にて確認)

所 在 地 新里町【国本地区】 規 模 2階建 3.5間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面積石壁

使用石材 中野石



No.87

建築時期 江戸末期 (口伝にて確認)

所 在 地 新里町【国本地区】 規 模 2 階建 3.5間×2.2間

屋 根 石屋根 壁 全面張石壁

使用石材 中野石



No.88

建築時期 明治4年(棟札にて確認)

所 在 地 新里町【国本地区】 規 模 2階建 5間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 桜田石



建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 新里町【国本地区】 規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.90

建築時期 明治8年(文書にて確認)

所 在 地 新里町【国本地区】 規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 トタン屋根

壁 全面積石壁

使用石材 不明



No.91

建築時期 明治10年(口伝にて確認)

所 在 地 新里町【国本地区】 規 模 2階建 3.5間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁 使用石材 徳次郎石



No.92

建築時期 安政2年(棟札にて確認)

所 在 地 新里町【国本地区】 規 模 2 階建 4 間×2 間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 寺沢石



建築時期 明治4年(棟札にて確認)

所 在 地 新里町【国本地区】

規 模 2階建 4間×3間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 寺沢石



No.94

建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 新里町【国本地区】

規 模 2階建 3.5間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 徳次郎石



No.95

建築時期 明治8年 (棟札にて確認)

所 在 地 大谷町【城山地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.96

建築時期 明治15年(棟札にて確認)

所 在 地 大谷町【城山地区】

規 模 2階建 3.5間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁



建築時期 明治5年(棟札にて確認)

所 在 地 駒生町【城山地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.98

建築時期 明治5年(墨書にて確認)

所 在 地 駒生町【城山地区】

規 模 2階建 5間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石



No.99

建築時期 明治10年(墨書にて確認)

所 在 地 田下町【城山地区】

規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 トタン屋根

壁 全面張石壁

使用石材 田下石



No100

建築時期 明治10年(口伝にて確認)

所 在 地 田下町【城山地区】

規 模 2階建 3.5間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁



建築時期 明治15年(棟札にて確認)

所 在 地 田下町【城山地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 トタン屋根 壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.102

建築時期 明治12年(棟札にて確認)

所 在 地 田野町【城山地区】

規 模 2階建 6間×3間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁 使用石材 田下石



No.103

建築時期 明治8年 (棟札にて確認)

所 在 地 田野町【城山地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 田下石



No.104

建築時期 明治4年(墨書にて確認)

所 在 地 福岡町【城山地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁



建築時期 江戸末期 (口伝にて確認)

所 在 地 大網町【富屋地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 徳次郎石



No.106

建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 上横倉町【富屋地区】

規 模 2階建 3.5間×2.5間

屋 根 石屋根

壁 腰以上張石壁

使用石材 德次郎石



No.107

建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 上横倉町【富屋地区】

規 模 2階建 2間×1.5間

屋 根 石屋根

壁 腰以上張石壁

使用石材 德次郎石



No.108

建築時期 江戸末期 (口伝にて確認)

所 在 地 上横倉町【富屋地区】

規模 2階建 3間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 徳次郎石



建築時期 明治元年 (棟札にて確認)

所 在 地 上横倉町【富屋地区】

規 模 2階建 3間×2間

 屋
 根
 石屋根

 壁
 全面張石壁

 使用石材
 徳次郎石



No.110

建築時期 嘉永3年(棟札にて確認)

所 在 地 上横倉町【富屋地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁 使用石材 徳次郎石



No.111

建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 下横倉町【富屋地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁 使用石材 徳次郎石



No.112

建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 下横倉町【富屋地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 トタン屋根

壁 全面張石壁 使用石材 德次郎石



建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 徳次郎町【富屋地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面積石壁

使用石材 徳次郎石



No.114

建築時期 寛政3年 (棟札にて確認)

所 在 地 德次郎町【富屋地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面積石壁

使用石材 徳次郎石



No.115

建築時期 明治10年(口伝にて確認)

所 在 地 徳次郎町【宮屋地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 石屋根

程度 全面張石壁

使用石材 德次郎石



No.116

建築時期 明治3年(文書にて確認)

所 在 地 徳次郎町【富屋地区】

規 模 2階建 4間×3間

屋 根 石屋根

星套 全面張石壁

使用石材 德次郎石



建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 德次郎町【富屋地区】

規 模 2階建 5間×3間

屋 根 石屋根

程定 張石腰壁

使用石材 德次郎石



No.118

建築時期 明治5年(棟札にて確認)

所 在 地 徳次郎町【富屋地区】

規 模 2階建 4間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 德次郎石

No.119

建築時期 明治2年(棟札にて確認)

所 在 地 徳次郎町【富屋地区】

規 模 2階建 4間×3間

屋 根 石屋根

驗 全面積石壁

使用石材 德次郎石

No.120

建築時期 明治初期(棟札にて確認)

所 在 地 徳次郎町【富屋地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 石屋根

55 全面張石壁

使用石材 徳次郎石







建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 德次郎町【富屋地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.122

建築時期 明治12年 (棟札にて確認)

所 在 地 德次郎町【富屋地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 徳次郎石



No.123

建築時期 明治15年(口伝にて確認)

所 在 地 篠井町【篠井地区】

規 模 2階建 2.5間×2間

屋 根 石屋根

壁 全面張石壁

使用石材 田中石



No.124

建築時期 慶応年間 (口伝にて確認)

所 在 地 鷺の谷町【姿川地区】

規 模 2階建 4間×3間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁



建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 下欠町【姿川地区】

規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 トタン屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石

No.126

建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 下欠町【姿川地区】

規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 トタン屋根

壁 全面張石壁

使用石材 不明

No.127

建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 下砥上町【姿川地区】

規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石

No.128

建築時期 嘉永年間 (口伝にて確認)

所 在 地 下砥上町【姿川地区】

規 模 2階建 3間×2.5間

屋 根 石屋根

壁 張石腰壁









建築時期 慶応年間 (口伝にて確認)

所 在 地 下砥上町【姿川地区】

規 模 2 階建 3 間×3 間

屋根 瓦屋根

程度 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.130

建築時期 明治10年(口伝にて確認)

所 在 地 下砥上町【姿川地区】

規模 2階建 5間×3間

屋 根 瓦屋根

验 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.131

建築時期 明治6年(口伝にて確認)

所 在 地 西川田本町【姿川地区】

規 模 2階建 5間×3間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石

No.132

建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 西川田本町【姿川地区】

規 模 2階建 5間×3間

屋 根 瓦屋根

199 張石腰壁





建築時期 明治初期 (口伝にて確認) 所 在 地 西川田本町【姿川地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根壁 張石腰壁使用石材 大谷石

No.134

建築時期 明治13年 (棟札にて確認)

所 在 地 西川田本町【姿川地区】

規 模 2階建 5間×3間

屋 根 瓦屋根 壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.135

建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 西川田町【姿川地区】

規模 2階建 3間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面積石壁

使用石材 大谷石



No.136

建築時期 明治初期(口伝にて確認)

所 在 地 幕田町【姿川地区】

規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁



建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 幕田町【姿川地区】

規 模 2階建 4間×3間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石



No.138

建築時期 明治7年(棟札にて確認)

所 在 地 幕田町【姿川地区】

規 模 2階建 3.5間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石



No.139

建築時期 明治10年(文書にて確認)

所 在 地 雀の宮3丁目【雀宮地区】

規 模 2階建 4間×3間

屋 根 トタン屋根

壁 全面積石壁

使用石材 大谷石



No.140

建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 東谷町【雀宮地区】

規 模 2階建 3.5間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁



建築時期 明治10年(口伝にて確認)

所 在 地 東谷町【雀宮地区】

規 模 2階建 3間×2間

屋 根 トタン屋根 壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.142

建築時期 明治8年(棟札にて確認)

所 在 地 中島町【雀宮地区】

規 模 2階建 4間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石



No.143

建築時期 明治11年(棟札にて確認)

所 在 地 中島町【雀宮地区】

規 模 2階建 3.5間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.144

建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 針ヶ谷町【雀宮地区】

規 模 2階建 6間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁



建築時期 明治8年(口伝にて確認)

所 在 地 茂原町【雀宮地区】

規 模 2階建 3.5間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.146

建築時期 明治8年(墨書にて確認)

所 在 地 茂原町【雀宮地区】

規 模 2階建 4間×3間

屋 根 瓦屋根

壁 全面積石壁



#### V 市内に所在する石造の主屋

No. 1

建築時期 昭和2年(口伝にて確認)

所 在 地 峰 3 丁目【陽東地区】

規 模 2階建 4.5間×4間

屋 根 トタン屋根

壁 全面積石壁

使用石材 大谷石

No.2

建築時期 昭和元年(口伝にて確認)

所 在 地 岩原町【国本地区】

規 模 2階建 4間×2間

屋 根 トタン屋根

壁 全面積石壁

使用石材 大谷石

Na 3

建築時期 明治45年(文書にて確認)

所 在 地 新里町【国本地区】

規 模 2階建 4.5間×3.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面積石壁

使用石材 寺沢石

No. 4

建築時期 明治18年 (口伝にて確認)

所 在 地 新里町【国本地区】

規 模 2階建 4.5間×3間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 中野石









建築時期 明治8年(文書にて確認)

所 在 地 徳次郎町【富屋地区】

規 模 2階建 5間×5間

屋 根 瓦屋根

156

使用石材 德次郎町

全面張石壁

Na 6

建築時期 大正時代 (口伝にて確認)

所 在 地 徳次郎町【富屋地区】 規 模 2階建 7.5間×3.5間

屋 根 瓦屋根

壁 全面積石壁

使用石材 不明



No. 7.

建築時期 不明

所 在 地 德次郎町【富屋地区】

規 模 2階建 6間×5間

屋根 瓦屋根

壁 全面積石壁

使用石材 德次郎石



No. 8

建築時期 昭和4年(口伝にて確認)

所 在 地 下欠町【姿川地区】

規 模 2階建 5間×5間

屋根 瓦屋根

壁 全面積石壁



## Ⅵ 市内に所在する石造門

No. 1

建築時期 明治中頃 (口伝にて確認)

所 在 地 石井町【陽東地区】

規 模 平屋建 8間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石

No.2

明治中頃 (口伝にて確認) 建築時期

所 在 地 峰1丁目【陽東地区】

規 模 平屋建 10間×3間

屋根 瓦屋根

程を 張石腰壁

使用石材 大谷石

No.3

建築時期 明治25年(口伝にて確認)

規模 平屋建 9間×2間

屋根 瓦屋根

原 張石腰壁

使用石材 大谷石

No. 4

建築時期 明治中頃(口伝にて確認)

所 在 地 下砥上町【宮の原地区】

平屋建 10間×2.5間 規 模

屋根 瓦屋根

150 張石腰壁

大谷石 使用石材









建築時期 明治中頃(口伝にて確認)

所 在 地 鶴田町【宮の原地区】

規 模 平屋建 9間×2間

屋根 瓦屋根

壁 全面積石壁

使用石材 大谷石



No. 6

建築時期 明治中頃(口伝にて確認)

所 在 地 砥上町【宮の原地区】

規 模 平屋建 9間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 不明



No. 7

建築時期 明治35年(口伝にて確認)

所 在 地 磁上町【宮の原地区】

規 模 平屋建 10間×2間

屋 根 瓦屋根

99 積石腰壁

使用石材 大谷石



No. 8

建築時期 大正5年(口伝にて確認)

所 在 地 下平出町【平石地区】

規 模 平屋建 10間×3間

屋 根 トタン屋根

壁 積石腰壁

使用石材 德次郎石



建築時期 昭和15年(口伝にて確認)

所 在 地 下平出町【平石地区】

規 模 平屋建 8間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石



No.10

建築時期 明治30年(口伝にて確認)

所 在 地 平出町【平石地区】

規 模 平屋建 12間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 積石腰壁

使用石材 大谷石



No.11

建築時期 明治時代 (口伝にて確認)

所 在 地 平出町【平石地区】

規 模 平屋建 10間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 積石腰壁

使用石材 大谷石



No.12

建築時期 明治中頃 (口伝にて確認)

所 在 地 平出町【平石地区】

規 模 平屋建 12間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 積石腰壁



建築時期 大正初期 (口伝にて確認)

所 在 地 平出町【平石地区】

規 模 平屋建 12間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁 使用石材 大谷石



No.14

建築時期 戦前 (口伝にて確認)

所 在 地 平出町【平石地区】

規 模 平屋建 12間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石



No.15

建築時期 昭和15年(口伝にて確認)

所在地 平出町【平石地区】

規 模 平屋建 12間×3.5間

屋 根 瓦屋根

壁 積石腰壁

使用石材 大谷石



No.16

建築時期 明治35年(口伝にて確認)

所 在 地 上篭谷町【清原地区】

規 模 中2階建 8間×1間

屋 根 瓦屋根

壁 積石腰壁



建築時期 天明年間 (口伝にて確認)

所 在 地 鐺山町【清原地区】

規 模 2階建 10間×2.5間

屋根

瓦屋根

166

積石腰壁

使用石材 大谷石



No.18

建築時期 明治8年(文書にて確認)

所 在 地 新里町【国本地区】

規 模 平屋建 9間×2間

屋 根 瓦屋根

整

積石腰壁

使用石材 不明



No.19

建築時期 明治8年(棟札にて確認)

所 在 地 新里町【国本地区】

規 模

平屋建 8間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 全面張石壁

使用石材 大谷石



No.20

建築時期 明治31年(棟札にて確認)

所在地

下荒針町【城山地区】

規 模 平屋建 11間×2.5間

屋 根 瓦屋根

400

全面張石壁



建築時期 明治2年(口伝にて確認)

所 在 地 福岡町【城山地区】

規 模 平屋建 11間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石



No.22

建築時期 明治25年(口伝にて確認)

所 在 地 福岡町【城山地区】

規 模 平屋建 10間×3.5間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 田下石



No.23

建築時期 明治元年(口伝にて確認)

所 在 地 上横倉町【宮屋地区】

規 模 平屋建 6間×1.5間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 德次郎石



No.24

建築時期 弘化年間 (口伝にて確認)

所 在 地 鷺の谷町【姿川地区】

規 模 平屋建 8間×3間

屋 根 鋼板屋根

壁 張石駿壁



建築時期 明治初期 (口伝にて確認)

所 在 地 下砥上町【姿川地区】

規 模 平屋建 12間×4間

屋 根 瓦屋根

壁 積石腰壁

使用石材 大谷石



No.26

建築時期 江戸時代 (口伝にて確認)

所 在 地 下砥上町【姿川地区】

規 模 平屋建 8間×2間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石

No.27

建築時期 明治40年(口伝にて確認)

所 在 地 下砥上町【姿川地区】

規 模 平屋建 9間×3間

屋 根 瓦屋根

壁 張石腰壁

使用石材 大谷石

No.28

建築時期 明治37年(口伝にて確認)

所 在 地 西川田本町【姿川地区】

規 模 平屋建 10間×2.5間

屋 根 瓦屋根

壁 積石腰壁







### あとがき

宇都宮市教育委員会では身近な生活の中にテーマを求め、文化財シリーズを発刊してきま した。今回、第15号として「宇都宮の石造建造物」を、関係者の方々のご協力・ご指導に より刊行することができました。ここに厚くお礼申し上げます。

天明18年(1788)に江戸幕府の巡見使に随行した古川古松軒は『東遊雑記』の中で、 宇都宮の印象を次のように記しています。

「この辺りは石のやわらかなるありて、それを瓦の如く削りなして、堂塔の屋根に葺くなり、他国にはなき石なり。」

また、寛政10年(1789)発行の『日本山海図絵』では、

「(豊島石の) 石理は、石磊のあつまり凝たるがごとし、浮石に似て石理あらきなり、故水 盤などに製しては水漏りて保ことなし、されど火に触れては損壊せず。……下野宇都宮にだせるもの此の石に似て、少しは美なり。」

古川古松軒の目には西国と比較して、草葺屋根の宇都宮の町並みの中にあって、大谷石で葺かれた寺院が印象づけられ、大谷石は石理は荒いが、耐火性もあり、美しいものとして映ったようです。

しかし、時の流れと共に石造建造物は次第にその姿を変えたり、消滅したりしているのが 現状です。今回の調査でも、かつては石葺屋根だったものが、瓦葺やトタン張りに変わった という報告が数多くありました。

石造建造物の現況を調査し、記録に残すことを目的に本冊子を編集しましたが、数多くある石造建造物ですから、いくつかの調査もれがあるかもしれません。今後も引き続き調査を 行っていくつもりですので、関係各位の更なるご指導・ご鞭撻を心からお願い申しあげます。

#### 文化財愛護シンボルマークについて一



このマークは文化財委護運動の一環として 昭和41年 5月に定められたもので、ひろげた両方の手のひらの パターンによって日本建築の重要な要素である牛栱の

イメージを表わし、これを三つ重ねることにより文化財という民族 の遺産を過去・現在・未来へと永遠に伝承していくという爰護精神 を象徴したものです。

平成9年3月発行

# 宇都宮の石造建造物

発 行 宇都宫市教育委員会

攝 集 宇都宮市教育委員会文化課

印刷所 サンプリント株式会社



文化財シリーズ第15号